

## ふしぎなたけのこ

松野正子 作

瀬川康男 絵

福音館書店 1966年 743円



昔、山奥の村に住むたろが、たけのこを掘りに行きました。たろが上着をすぐそばのたけのこにかけると、たけのこがぐぐっとのびました。慌ててとびつくと、たけのこはたろを乗せたまま天高くのびていきました。村人が総出で巨大なたけのこを切り倒し、たけのこに沿ってたろを探しに行くと、なんとそこは初めて見る海でした。勢いのある線で描かれたたけのこが圧巻な、昔話風の創作絵本です。

## ぶたたぬききつねねこ

馬場のぼる [著]



こぐま社 1978年 1000円

書名が示すとおり、しりとり遊びの絵本です。「おひさま、まど、どあ、あほうどり、りんご、ごりら、らっは、ぱいなっぷる…」と続きます。意表をついた展開をするしりとりで愉快な絵が描かれていて楽しめます。そして最後は子どもたちの大好きな「くりすます」で終わります。続編に「ぶたたぬききつねねこ その2」があり、こちらは「じゅうごや」で終わります。

## ブルーベリーもりのプッテのぼうけん

エルサ・ベスコフ 作・絵

おのでらゆりこ 訳

福音館書店 1977年 1300円



プッテはお母さんの誕生日のおくりものにと、ブルーベリーとこけももをつみに森へ行きました。すると、ブルーベリーもりの王様の小人が現れて、小人の国へ案内してくれました。魔法で小さくなったプッテは、王様とこけももかあさんの子どもたちにブルーベリーとこけももをつんでもらい、いっしょに楽しい時を過ごします。丁寧に描かれた絵の、緑の中に使われている赤と青が印象的です。